

(様式3)

自己評価結果票 (1階ユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1.理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>一、仕える精神の実践</p> <p>一、あなたも行っておなじょうに下さい</p> <p>当法人の運営理念である。</p> <p>グループホーム出石愛の園の理念として5つの理念があり、玄関に掲示すると共に職員に周知徹底し、理念に基づいたケアに努めている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>管理者は理念について、毎朝の朝礼で唱和するとともに、職員は日々、理念の実践に向け、言葉使いや接する態度で表現し実践している。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>理念は、玄関の壁に掲げ、誰の目にもふれやすいようにしている。また、地域に出て、グループホームで生活していることを理解して頂いたうえで、馴染みの方々との交流の時を持てるよう理解を求め、取り組んでいる。</p>	
2.地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩の時などの挨拶や言葉かけを行っている。ご近所から花や野菜を頂くこともある。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>事業所のある自治会・老人会(休止中)には参加していないが、各利用者の所属していた老人会に参加される方が、何名かおられる。地域の行事(町の催しもの)や地域ケア会議には、積極的に参加している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>運営推進委員会や家族の集いの場を通して、役立つことがないか、発信している。地域ケア会議において、地域の高齢者に対する、お話や何かできることを話し合い、実施に向けて検討している。</p>	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>第三者からの評価を受け、公平な目で自施設を評価して頂くことは、有意義と考えている。ご指摘いただいたことについては、検討を行い、できる限り改善に取り組みたい。</p>	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2か月に一度、地区の民生委員、副区長、地域包括支援センター職員と運営推進委員会を開き、グループホームからの報告や、地域からの情報・意見を頂きサービスの向上に活かしている。</p>	
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>昨年度より、町単位で開催されている地域ケア会議に、積極的に参加し、様々な地域の医療・福祉関係の担当者との意見交換は、たくさんの情報をもたえ、サービス向上につながっている。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者は、地域ケア会議や各研修で学ぶ機会をもち、必要であれば支援したいと考えている。(現在のところ必要性のある方はいないと感じている)</p>	
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>随時、言葉や態度での虐待があること等を職員が自覚し、接することが出来るよう日頃から指導している。また、会議等を機会に虐待について学び、指導を行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なじみの職員の支援が受けれる努力、ご利用者へのダメージを防ぐ配慮は最大限行っているが、離職・異動もある。今年も、一人だけであった。年数を重ねるごとに全体的には職員の力がついてきている。		
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	老健との合同研修、グループホーム全国大会への参加など機会は増えてきている。また、研修案内を掲示し、各個人で選んでいけるようにしている。もちろん、OJTもその都度行っている。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議にリーダーが参加することで、地域の同業者との交流、地域福祉の取り組みが話し合われ、サービスの向上にもつながっている。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定時で終われるよう環境づくりに努め、定期的に食事会を開催することで、ストレスの軽減につながっている。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	内外の研修への参加を促したり、介護福祉士、ケアマネジャーの資格を積極的にとること等個人の能力アップを勧める手立て、自分の意見を聞いてもらうこと等は、向上心を持つことにつながっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご利用までにご本人から思いを聴く機会は少ない。初期に限らず、ご利用者の思いを聞き流さず、その時その時の思いを真剣に受け止め、共に考える姿勢を持てるよう努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>申し込みの希望がある際、または入所前、見学をして頂き、ご家族の思いをお聴きし、受け止められるよう努めている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談に来られた際は申込書の受け取りだけでなく、お話をお聴きし、必要であれば介護保険の説明など幅広い相談をしている。他のサービスと併用して申し込まれる方もいらっしゃる。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>事前にご本人にも見学に来ていただいたり、入所直後はご家族が可能であれば面会を多く持っていたり、ご自宅への外出、外泊もお勧めしている。ご家族と共に...との思いで相談しながら行っている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、介護をするというよりは、一緒に生活をさせてもらっている立場にあり、協力して生活する中に、喜怒哀楽もあり、教えられることもある。そのような支えあう関係を目指して努力している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	ご利用者の日頃の様子を電話や面会時にお話した上で、どうして行くか共に考え、共に支えて下さっている。		
29 利用者との家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との接点を持てるよう、受診対応や面会、外出時の付き添いの依頼をさせて頂いている。遠方の方には、電話をさせて頂いたり、メールでの報告を行っている。月々は、生活の様子を家族に報告すると共に、利用者の意向も家族に伝えるようにしている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常的には町内には散策に出て馴染みの関係を継続したり、時に出身地など馴染みの場所へドライブにも出掛けている。		
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	相性を把握した上で、ご一緒にで出掛けたり、リビングではこじんまり座ったりして、孤立しないよう関わりの援助を行っている。		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了となると、会うことも殆どないが、「また、いつでも寄って下さい。お茶でも飲みましょう」等声をかけさせてもらっている。他の施設の移っても面会に出かける職員もいる。必要とするご家族があれば、大切に伝えていきたい。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>お一人、お一人が言葉や態度であらわされるご希望・意向を受け止め、実現できるよう支援している。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>ご本人やお話されること、ご家族からお聞きすること、また実際にご自宅にお伺いすることもあり、そこから生活歴の把握をし、記録している。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>おひとりおひとりの一日の過ごし方・心身状態を把握し、各々の活動を支援している。</p>	
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ご本人が日々口にされる思い、行動に表される思い、ご家族のお気持ちを反映させたケアプランとなるよう努めている。介護計画には、家族の了解を得る。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>1ヶ月に1度、居室担当者がケアプランの見直しを行なっている。毎日行なっているミーティングで、ケアプランのモニタリングを行ない、他の職員の意見も聞いた上で見直しし、次の新たな計画へとつなげている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や心身の変化、食事量等カルテに記載している。また情報収集しやすいよう、日誌に各人の特変事項を記載し、徹底事項はノートに記載し、情報が共有できるよう努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者・ご家族のご要望あれば“在宅”として往診・訪問看護を受けたりと、できるだけご利用者、家族のご要望に応じた支援を行っていきたくと考えている。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ご利用者が、ご自宅に職員と一緒に戻られる時は、民生委員に話しを通し、十分理解して頂いたり、また、防災訓練では、消防署の立会いをお願いしている。ボランティアによる慰問も積極的に受け入れを行っている。		
41 他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	老人福祉施設への入所希望や入院など、ご希望や必要に応じ他のケアマネと共に利用の支援を行っている。		
42 地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在特に必要としておられる方はいない。必要に応じ相談し協働していきたい。運営推進委員会に出席をして下さったり、地域ケア会議に出席することで、地域包括支援センターとの協働は行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	お一人、お一人かかりつけ医は選んで頂いている。日々のご様子を報告し定期的に受診、もしくは往診して頂いている。急変時も電話連絡して、指示を頂いている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じ専門医を紹介し、一緒に受診したり、職員が相談したりしている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週1回看護職員が勤務し、ご利用者の健康状態の把握を行い、主治医との連携を図り、日常の健康管理を行っている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された際には出来るだけ足を運び、直接看護師からお話を伺ったり情報交換し、援助している。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医から現状や予後の話をして頂き、方針を共有している。状態の変化がある度に確認している。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医が往診に来て下さり、また訪問看護の利用も可能である。ご家族も含め、終末期の過ごし方も事前に確認を行い、連携しながら支援できることを話している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>家族間での十分な話し合いを持って頂き、双方納得して上で、ケア関係者間では、サマリーを他施設ならばお渡ししたり、口頭でも情報交換を行っている。</p>	
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉遣い、言葉かけ、態度には十分注意し日々接している。カルテの扱いにも注意を払っている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>ご利用者の思いをお聴きしたり、行動からよみとったりしながら、職員も共に考え、ご自分で決めて頂けるよう援助している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>お一人お一人の生活のペースや好みを把握し、活動の声かけをしている。ご本人の希望に沿った生活ができるよう、職員が動けるよう努めている。</p>	
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>お一人、お一人の馴染みの理容・美容室へと援助し、その方によって、まゆげやリップ等のおしゃれも支援している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事準備や食事・片付けをしているのはもちろんの事ご飯の盛る量、刻み方、糖尿食、席の相性など配慮している。誕生会には、誕生者の好みのお出ししている。		
55	利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	水分補給の飲み物やおやつは、その方の体調や食欲好みを知り、その方の好みのもを提供している。お酒の提供は、行っていない。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用し、排泄パターンを知りパットに出さしてしまう(失敗させてしまう)のは申し訳ない気持ちを職員がもち、トイレ誘導をし、気持ちのよい排泄を支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日でも好みの時間に入浴して頂けるよう、毎回声掛けを行い。希望を聞くよう職員は努力し、支援している。入浴は、職員とマンツーマンで行う。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室で眠りにくい方はリビングにて対応したり、状況に応じ、安眠を支援している。昼間から休まれる方もおられますが、昼夜逆転生活にならないよう配慮も行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	台所が好きな方には台所、お出かけが好きな方には外出を、散歩に行きたい方、馴染みの場所に行きたい方・・・と個人に合わせて支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力にに応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でもたれたい方(出来る方)には、ご家族了解のもと、ご自身で財布(数千円程度)をもって頂いており使っておられる。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物は、毎日のように出掛け、希望される方と一緒に出かけている。また、地域の祭りや催しものにも興味がある方等をお誘いしたり、地域行事にもお誘いし、希望される方等をお連れしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	実家やその地元訪問ドライブなど個別に対応することもあり、喜んで頂いている。希望があれば、家族と共に出掛けることも、家族に以来している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書かれるご利用者もおられ、書いた手紙と一緒にポストまで出しに行ったり、電話の希望があれば架けて頂いている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	リビングや居室にてゆっくりお過ごし頂けるように、お茶をお出し等してお迎えしている。また、希望があれば、友人宅を訪問されることもしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。何かで押さえつけるようなケアをしないことは徹底している。言葉による拘束もないよう指導している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けることの弊害は理解できているが、玄関のみ電子ロックを掛けている（玄関以外は何処からでも出入りできる）。玄関にてワンクッションになり外出を援助できている。		すべてに鍵をかけないケアに取り組んでいきたいと考えている。しかし、今年に入っても無断で出られている現状があり、命を守ることとの最大限の努力を行っていく。
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常にご利用者が今何処で何をしていたらしゃるか、出勤職員で連携をとり、目や耳で確認し安全にお過ごし頂けるようよう支援している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみやつめきり、裁縫道具などその方に応じ、安全に使用できる方に使って頂き、管理、見守りを行っている。包丁に関しても使える方には、使って頂き、その都度見守り、管理している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	業務中、ヒヤットした事等を報告書に記載し、予防対策を検討し、職員全員に徹底している。また、リーダー会議で報告、対策を検討し、同じ事故を2度と起こさないよう予防対策を徹底している。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的な訓練は行っていないが、勉強会を行い、連絡体制は整えている。老健で行われる救命講習に参加している。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	3月末に避難誘導訓練を実施した。最低年2回は、避難訓練を行うことを計画している。職員は確実に身に付けたい。連絡網により、愛の園全体の職員の協力体制はできている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	<p>ご様子（行動や体調）は面会時や電話、メール等こまめにお声掛けし、お話するようにしている。</p>	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>毎朝バイタルチェックを行い、異常の早期発見に努めている。排泄ケア時や入浴時に皮膚状態を観察したり、本人の表情、動作等観察し、体調の変化はリーダーに報告したり、ミーティング等で情報を共有し、対応している。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>誤薬のないよう、複数の職員で確認すると共に、服用している薬の説明書をカルテにとじ、それに目を通し、薬の目的等を理解し、服薬の支援を行っている。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>朝食には必ずヨーグルトと、かぼちゃかサツマイモの副食をお出ししている。また水分補給に留意し、1日の水分量をカルテに記載する。毎日の体操、運動も心がけている。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>義歯使用の方は、毎晩、義歯洗浄剤を使用している。毎食の口腔ケアを声かけし、援助している。また、口腔ケアの重要性を常に職員に話している。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事をあまり摂取されなかった方には、食べやすい補食（バナナ・アンパンなど）を提供し、水分もこまめに種類をかえ提供するなど工夫している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防対策マニュアルがあり、実行している。毎日、トイレはハイターで消毒し、テーブルも毎食ハイター消毒を行っている。万一、嘔吐、下痢等が発生した場合の対応も手順を定めている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	ふきん・まな板は毎日消毒すること。手洗い・手指消毒の徹底など安全に努めている。その日に購入した食材は、冷蔵庫で保存し、遅くとも次の日のお昼までに使い切っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前、リビング等には、常に季節の花があるように気をつけている。裏には畑もあり、ホッとする空間になっている。草取りも注意を払っている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルには、散歩で摘んできた季節の花があり、リビングにいながら台所の様子や音を感じられる。電灯も細かく場所を分けて調整できる。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下のソファや椅子・ベッド、こたつの間はお一人お一人のその時に応じ利用がなされている。例えば、談話されたり、独りになられたりと、居心地よい場所となっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ椅子や家具など持ち込んでいただけるようご家族にご協力いただいている。好みに囲まれた居室であるよう支援している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	気になるにおいのある部屋には空気清浄機を設置したり、換気に努めている。温度・湿度も一日6回確認し状況、季節に応じ調節している。冷房を嫌われる方がおられ、夏場は、極力自然の風を利用するよう心がけている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段・廊下・浴室の手すり、室内エレベーターなど整った安全な環境がある。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所が分かるよう、ドアに便所を書いたり、居室に各自の名札を付けている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭には、畑や洗濯干しを置き、草取り、花壇の手入れ、洗濯物干し等をして頂いている。ベランダでは、日向ぼっこや外の空気を吸って気分転換に役立っている。		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目 (1階ユニット)		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

法人の運営方針にもありますが、ご利用者様には、仕える精神をモットーに、私たちの大先輩であられる方々が、病気等で介護が必要になってしまったことで、負い目を感じることがないように、言葉使い、態度で尊敬の気持ちを持って接していくことを実践します。そのためには、ご利用者様の主体的な意見を、できる限り聞き取り、本人のしたいこと、喜ばれることが何であるかを職員が感じて、ケアに生かせるよう心がけていきたいと思っています。それでも、自分の家がいいから、帰りたい、無断で出て行こうとされる方もいらっしゃり、自分たちの力の無さを感じることもあります。その様な訴えは、今のままでは、満足していないよ、私たちの声を聞いてと訴えかけてきているものであること認識し、その方の訴えを心で感じ取り、返していけるよう技量アップを図りたいと思います。人生最後になるかもしれない生活の場を、私たちの施設を選んで下さったことを感謝し、もし最後になったとしたら、ここで生活できてよかったと感じて頂けるよう、職員一人一人が、努力し、その方にとって最善のケアを考え、ご利用者様の心に寄り添える介護の提供していくことを追求していきたいと思っています。